

# しこく

# 夏

2021年6月  
第68号

02 特集

## 「がん薬物療法専門医」 の役割

04

病院長のつぶやき

昨日よりも今日、  
今日よりも明日、  
少しずつ進んでいこう

05

部門紹介

いい人み~つけた！  
(中央監視室、栄養管理室)

06

地域包括ケア病棟

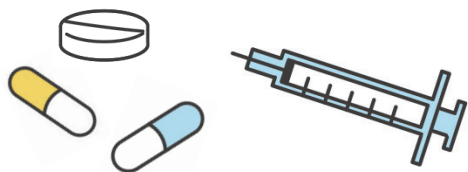
08

新任医師・職員紹介



## 特集

# 「がん薬物療法専門医」の役割

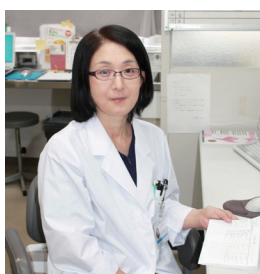


公立学校共済組合四国中央病院  
乳腺・内分泌外科部長  
武知 浩和 (たけち ひろかず)



当院に赴任して2年目をむかえました。日頃は乳癌診療を中心に多忙な毎日を送っております。

さて、この4月から当科に森本雅美先生が赴任されました。森本先生とは長きにわたり前任地で一緒に仕事しており、このたび縁あってコンビ復活となりました。気心のしれた同僚と仕事できるのは心強く、今まで以上に乳癌検診、乳癌治療、遺伝性腫瘍相談、緩和ケアの領域を充実させたいと考えております。



公立学校共済組合  
四国中央病院  
外科医長  
森本 雅美 (もりもとまさみ)

ところで皆様は「腫瘍内科」をご存じでしょうか？ 腫瘍内科とは主にがん薬物療法のスペシャリストであり、日本

臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医は幅広い薬物療法についての知識、技術を持つ専門医と定義されており、看護師や薬剤師と連携してがん治療をコーディネートする司令塔としての役割を求められます。現在我が国には約1500名の専門医が認定されていますが、欧米と比較すると、まだまだ不足していると指摘されています。我々は昨年度認定試験に合格して4月から「がん薬物療法専門医」を標榜しております。当院規模の施設で同一診療科に2名在籍しているのは、全国的にみても少なく、誇らしく思っている部分もあります。資格を得てからいかに社会貢献できるかが重要と考えておりますので、これからの治療成績が問われていることは重々承知しております。

ここからは具体的なお話を

します。乳癌治療はがん3大治療のうち手術＋放射線といたった局所治療だけで相当高率に治癒が期待できるのは0期だけで、I期以上の患者には全身治療いわゆる薬物療法が多く、ケースが必要になってくることは乳癌専門医であれば常識となっています。初期治療と遠隔臓器転移をきたしたケースで治療目標は異なりますが、薬部療法の基本としてはホルモン感受性陽性(女性ホルモンに反応する受容体を持つていること)であれば内分泌療法＋化学療法(いわゆる抗癌剤のこと)を検討します。悪性度が高い場合には効果が期待できますので化学療法上乘せは重要となります。一方、ホルモン感受性陰性であれば浸潤径が小さくても化学療法を絶えず検討します。さらにどちらのケースであってもHER2陽性であれば抗HER2薬(トラスツズマブ



などの分子標的薬のこと）上乘せを強くお勧めします。このような治療方針は標準治療が定まっておりますのでガイドラインに基づく戦略をたて

ることが重要です。標準治療というの一見並な治療のような印象を与えますが、厳格な臨床試験を勝ち抜いた最良治療と考えてください。最も有害事象が目立つ化学療法を例にすると、治療目標でいえば初期治療は最大量を期間内にきっちり投与することが重要であり、遠隔転移をとまなうケースではメニューを変更することはありますが、長期にわたり投与継続を目指すことが重要となります。前者では支持療法をしっかりとこなって有害事象を緩和することが、後者では有害事象が少なくなるような無理のないマネジメントを行うことが重要であり、ここが腫瘍内科の腕の見せ所と言えます。我々はこれまでの知識、技術、経験をもとに満足度と安全性の高い薬物療法を目指す努力を怠らないことをここに誓います。

※HER2とは、細胞の表面に存在する細胞増殖の調節などに関与するタンパク質のこと

抗癌剤につきましては、やらないで済むならやりたくないと思うのが当然ですし、独善的で押しつけになるような方針決定は厳に慎まなければならぬことは肝に銘じております。しかしながら、これまで我々はメリットとデメリットを天秤にかけてメリットが勝っていると判断した際には積極果敢にお勧めしてきましたし、これからもその信念は変わりません。

最後になりますが、福山市民病院 乳腺甲状腺外科部長 池田雅彦先生の言葉をご紹介して皆様へのメッセージといたします。  
「どうか科学を信じてください。どうか人類の英知を信じてください。」

公立学校共済組合  
四国中央病院

病院長 北川哲也



昨日よりも今日、今日よりも明日、  
少しずつ進んでいこう

朝、少しは整理整頓したはずの机の上も、数時間もすれば段々と紙が積み重なり、本が崩れ、コーヒーの染みがつき、乱雑になっていく。いつもそれに抗うように、微妙な動的平衡を維持している。

ずいぶん前のことであるが、元サッカー全日本監督のオシムさんが、急性脳梗塞からの回復後に、「攻撃」を作り上げる難しさに比べれば、相手の作り上げた攻撃を壊す「守備」はやさしい。でもね。作り上げることの方が良い人生でしょう」と話されていた。「攻撃」を作り上げるには高いモチベーションを維持する「情熱」をもちつづけることが必要なのだろう。

また、囲碁では先手と後手が一手一手交互に打つ。際限なく、良いことと悪いことが、交互にやってくる。大事なことは大局感を持ち、急所を見逃さず、本手（自陣の構えの急所）を省かないことである。  
わたしたちは、「ミラーニューロン」物

まね細胞」により、本能的に、目にした行為をあたかも自身のものであるかのように共鳴し、無意識に自らの行動に模倣する。

今だからこそ言えるが、若い頃、手術中に自制を失う・怒鳴るといった、恥ずかしい経験がある。専門知識や技術と引きかえに、それが許容されると思っていたのである。きっと、周囲も、あゝあ、いつもの噴火だ。過ぎ去るのを待とうとでも思っており、現場はますます混沌に陥り、上手くいくはずがないのである。更に嫌なことには、やがて、この「怒鳴る」は、それを目にした他者に模倣され、伝染するのである。

嫌な模倣による伝染を断つために、わたしたち一人一人は、「いつも他者の身になって考えよ」と肝に銘じておかねばならない。

わたしたちは、直面している新型コロナウイルス感染症に対して、皆の幸福や健やかな身体を守るために、ワクチン接種により、自陣の構えをより強固なものに挺入れし、様々な課題に向き合い、行政、保健所、医師会等と連携して社会貢献したい。

わたしたちは私達の同一性・相補性を保って将来に繋がるために、常に小さく変わり続けていこうではないか。新しい中核病院に向かって、何が必要なのか、意識してもっと確かな準備をしていきたいと考えている。

Doctor's column  
ドクターズ コラム

注目の医療技術や健康づくりのヒントを紹介します



内臓脂肪の反乱!?

脂肪には皮下脂肪と内臓脂肪があります。脂肪というと、食べ過ぎたときに余ったエネルギーを蓄えるカロリー貯蔵庫みたいなものと思われがちですが、そんな単純なものではありません。脂肪はアディポサイトカインと呼ばれる生理活性物質（ホルモンみたいなもの）を大量に放出する分泌器官です。このアディポサイトカインの産生量は皮下脂肪では少なく、多くは内臓脂肪で作られることがわかっています。アディポサイトカインは多くの種類が発見されていますが、それぞれ善玉と悪玉に分けられます。困ったことに肥満で内臓脂肪が増えると、なぜか善玉の方が減り、悪玉だけが増えてしまいます。では悪玉はどのような悪さをするのでしょうか。それは、インシュリンを効きにくくして血糖が下がらなくなる（その結果が糖尿病）、血管を硬くする（その結果が高血圧）、血液が固まりやすくなり血栓を作る（そ

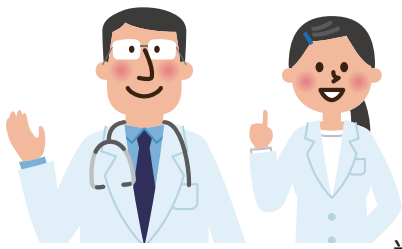
の結果が脳梗塞・心筋梗塞）、免疫機能を乱す（その結果が感染症）などです。これがメタボリック症候群といわれているものです。

アディポサイトカインは人間の都合で善玉・悪玉に分けられています。通常の健康な状態では、善も悪もなく両方が協力してバランスよく働き、生体機能を維持しています。それが肥満で内臓脂肪が肥大すると、内臓脂肪集団が不良化し、あちらこちらで悪さをするようになります。そもそも内臓脂肪は脂肪を貯め込むところではありません。皮下脂肪はエネルギーの貯蔵、保温、外圧からの保護などの役割がありますが、内臓脂肪はこのような役割を引き受けるところではないのです。カロリーの摂り過ぎを内臓脂肪の側から見ると、「これ以上は引き受けられない、もうやめてくれ!」とでも言っているのでしょうか。その結果、不良集団に変化して反乱を起こしているのではないのでしょうか。身体も動かさず、欲望にまかせて必要以上に食べ過ぎる私たち現代人の自業自得なのかもしれません。反乱が起きてから鎮圧するのは愚策。起こらないようにコントロールするのが妙策です。

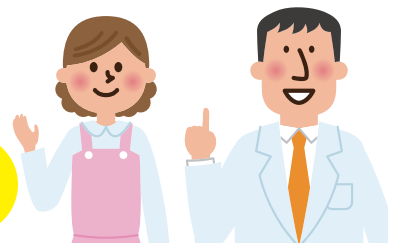


健康管理センター長  
濱田信一（はまだ しんいち）





VOL.5



当院で働く医師や看護師などのスタッフは総勢 375 人。  
皆さんがまだ知らない (知っている!?) “ステキな人たち” を紹介します。

### 推薦者 看護師長一同

どんな依頼でもいつも快く引き受けてくれて、笑顔で飛んできてくれる「スーパーマン」の川東さん。迅速かつ丁寧な仕事で、何でも器用にこなし、限られた資源で創意工夫して生み出すアイデアには圧巻です。患者さんが安全安心に使えるように、車椅子・歩行器・椅子・棚などの点検や修理をして甦らせてくれる「リメイクの達人」でもあります。



### 中央監視室

病院建物のメンテナンスや、電気やボイラー・給排水など設備の運転状況を管理しています。普段、患者さんと接することは多くありませんが、患者さんが少しでも快適に過ごせるように働いています。

### 主任営繕士

かわひがし のぶあき  
川東 信明 さん

営繕士という仕事はみなさんにはあまり馴染みのないと思いますが、簡単に言えば建物の管理、修繕を主に行う仕事です。各部署が円滑に仕事できるように協力し、患者さんにより良い診療ができるよう努力したいと思います。

諸事情によりスキンヘッドで、見た目には声をかけづらいかと思いますが、患者さん・職員のみなさんお困りのときは、気軽に声を掛けていただけたらと思います。



車と子どもが大好きなイクメンパパ

植木や花の手入れも。季節ごとにきれいな花を咲かせてくれます。



推薦者 おさき みほ  
尾崎 美穂 (栄養士)

患者さんから食事の要望やご意見をいただいた時に一番に声をかける人がいます。栄養管理室の調理師、井川さんと高橋さんです。

特に高齢の患者さんが入院する頻度は高く、嚥下(えんげ)機能の低下や疾患による治療食の提供など、調理方法や食材に制限がある中で、おいしい食事を作ることは簡単なことではありません。様々な病院や施設での経験を持つ二人には、多くの方においしく食べてもらいたいという想いがあります。いつも前向きで、仕事に取り組む姿勢に、私も頑張ろう! と勇気づけられます。

### 調理師 (日清医療食品)

たかはし  
高橋 めぐみ さん

いかわ まさと  
井川 雅人 さん

今日の食事はどうでしたか? 一人でも多くの方においしく、食事の時間が楽しみに感じて頂けるよう食事を作っています。これからも食事面から患者さんをサポートできるよう頑張ります。1日でも早く回復され、退院できることを願っています。

### 栄養管理室

医師の指示に基づき食事を提供したり、患者さんの栄養管理を行っています。厨房業務では、献立作成や調理および配膳、新生児の調乳等、赤ちゃんから高齢の方まで様々な所で関わっています。



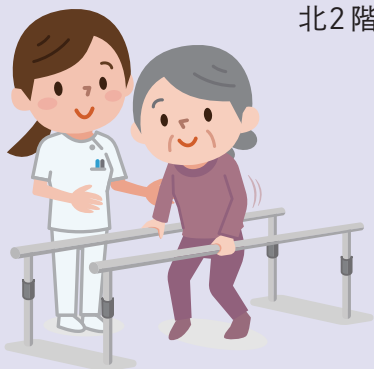
食事をされる方の事を想いながら、いかにおいしく調理するかを考えています。

厨房スタッフをまとめる高橋さん(左)と井川さん(右)

# 地域包括ケア病棟（北2階病棟）

「地域包括ケア病棟」とは、入院後に急性期の治療を經過し、病状が安定された患者さんに対して、在宅や介護施設への復帰に向けた医療や支援を提供する病棟です。

当院では、令和元年10月から急性期治療後に在宅復帰支援をおこなうため、北2階病棟で「地域包括ケア病棟」を運用しています。



## 対象となる患者さん

- ・急性期の治療を經過したが、もう少し経過観察が必要な方
- ・在宅などでの療養準備が必要な方
- ・在宅などへの復帰に向けてリハビリが必要な方
- ・緩和ケア、レスパイト入院 等

## 「私たちが担当します」

医療・介護の切れ目のない連携を行うために多職種カンファレンスや退院前・退院後訪問を実施し、これまで以上に医療サービスの質向上を目指します！

＼ 質の高いリハビリを提供します /



地域包括ケア病棟  
医長  
竹治副院長

在宅を見すえた看護を  
提供します



理学療法士 (OT) ・ 作業療法士 (PT)



担当看護師



ご相談窓口

地域連携室の「医療ソーシャルワーカー」まで  
お問い合わせください



# 【こころの診療所 いぶき】

令和3年3月8日、三島川之江インターチェンジを降りて北西1km程のところの当院を開設しました。いぶきの名称は天然記念物下柏の大柏いぶきにちなみました。医療法人誓生会の理念「生きる力を育む」ともつながりを感じます。四国中央市東部の精神科医療が不足する中で、松風病院で私たちが培ったものを四国中央市の皆さんにお返しできるのではないかと考え開設を決意しました。患者さんを中心とした様々な人とつながり、資源（リソース）を見出し、協同して癒し、患者さんの生きる力がいぶく診療をしていきます。



院長  
山内 紀子 先生

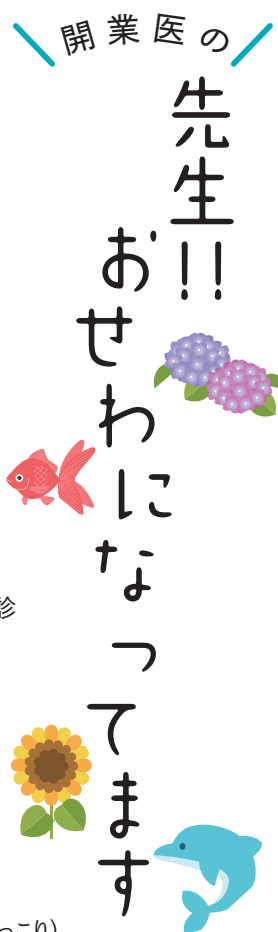
**診療科**  
心療内科・精神科

**診療時間**

午前 9:00 ~ 12:00  
午後 13:30 ~ 17:00 土日・祝祭日休診

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	休
午後	休	●	休	●	●	休

住所 〒799-0411  
四国中央市下柏町 755-2  
TEL **0896-22-3725** (みんなにつこり)



# 【豊永医院】

**診療科**  
内科・外科



院長  
豊永 文雄 先生

**診療時間**

午前 9:00 ~ 12:30  
午後 14:00 ~ 18:00  
日・祝祭日休診

	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	●
午後	●	●	●	休	●	休

住所 〒799-0123  
四国中央市金田町金川 45-1  
TEL **0896-56-3037**

当院は四国中央市金田町で代々医業を続けております。私自身は昭和63年に医院を継承し、地域のかかりつけ医として現在に至っております。

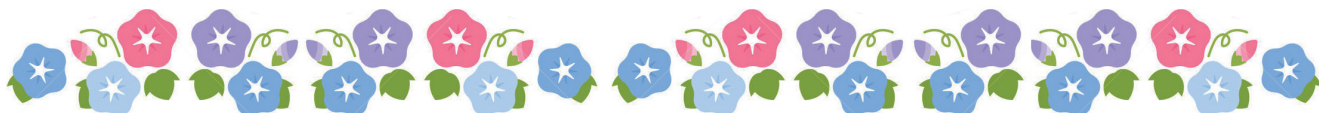
診療科目は内科・外科・泌尿器科です。泌尿器科は新型コロナの影響で出張が困難となり、現在休診中のため皆様にご迷惑をお掛けしております。

四国中央病院には精査の必要な方・入院が必要な方等をお願いしておりますが、いつも迅速丁寧な対応をしていただいております。感謝いたします。

四国中央市の中核病院として更なる発展を期待しています。

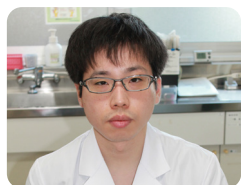


本院は、地域の医療機関と連携しながら日々の診療に取り組んでいます。ご協力いただいている開業医の先生方への感謝の気持ちを込めてご紹介いたします。



# 新任医師・職員紹介 はじめまして、よろしくお願ひします

2021(令和3)年度に新たに採用された10名を紹介します。①趣味 ②メッセージ



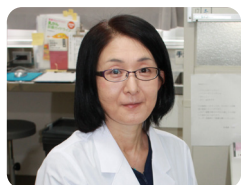
内科医員  
梶本 達也(かじもと たつや)

①テニス②今年の3月より内科で働かせていただいている梶本と申します。医師になって4年目で未熟な身ではありますが、頑張っていきたいと思ひます。



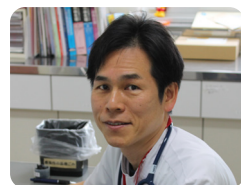
精神科部長  
新野 秀人(しんの ひと)

①旅行②大学病院や総合病院精神科で、リエゾン精神医学、認知症、睡眠医学を中心に診療してきました。認知症疾患医療センターでは、早期診断の推進などに積極的に取り組んで参ります。



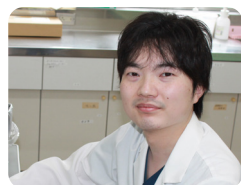
外科医長  
森本 雅美(もりもと まさみ)

①観葉植物を育てること②外科でお世話になります森本です。先生方やスタッフの皆様は助けていただきながら、まじめに努めたいと思ひます。気軽にお声をかけていただければ嬉しいです。



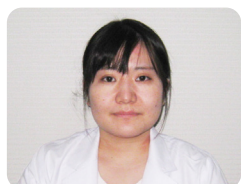
第二小児科部長  
(愛媛大学寄附講座)  
平井 洋生(ひらい ひろき)

①野球・スポーツ②子どもたちが安心して成長できるようにお手伝ひします。小児一般と低身長、肥満、糖尿病などの診療を専門にしています。気楽にご相談ください。



小児科医員  
地行 健二(ちぎょう けんじ)

①旅行・ボウリング②初めて四国中央市に赴任しました。この地域の小児医療に貢献できるように頑張ります。また、子供に寄り添った診療を心掛けます。子どもの事は何でも気軽に相談ください。



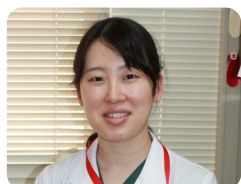
内科医員  
門田 美由香(かどた みゆか)

①なし②至らないところがあると思ひますが、精一杯努力して参ります。



内科医員  
(徳島大学寄附講座)  
福家 慧(ふくや あきら)

①サッカー②内科(徳大寄附講座)として4月から働いています。消化器疾患を中心に診療しますので、よろしくお願ひします。



産婦人科医員  
笹田 ひかり(ささだ ひかり)

①ライブに行くこと②産婦人科医として赴任しました笹田と申します。徳島で生まれ育ち、外で働くのは今回が初めてです。1日でも早く慣れて四国中央市の医療に貢献出来るよう頑張ります。



医事係長  
片桐 真樹(かたぎり まさき)

①スポーツ観戦②東海中央病院(岐阜県)から事務部医事課医事係長に着任いたしました。単身赴任で慣れない環境ですが、心機一転頑張りたいと思ひます。



経営企画係長  
窪田 寛之(くぼた ひろゆき)

①読書②世田谷区の関東中央病院での転勤を終え、3年ぶりに戻って参りました。少しでもお役に立てますよう新たな気持ちで頑張りますので、よろしくお願ひします。

## 新規採用者合同オリエンテーションを実施

4/1  
木



令和3年度の新規採用者合同オリエンテーションを行い、19名の職員が当院に入職しました。

## 来院される方へのお願い

当院では新型コロナウイルス感染症対策のため、病院玄関にてマスク着用・手指消毒・検温をお願いしています。



マスク着用



手指消毒



検温

カレンダー 7月22日(木) 海の日 23日(金) スポーツの日 8月8日(日) 山の日 9日(月) 振替休日 次号(秋号)は9月1日(水)発行です。

病院理念… Smile(笑顔)、Speed(迅速)、Sincerity(誠意)を基調として、質の高い医療を提供し、地域と共に成長し、安心・安全を未来に繋ぐ。

公立学校共済組合  
**四国中央病院** 愛媛県指定がん診療連携推進病院  
Shikoku Central Hospital of the Mutual aid Association of Public School teachers

〒799-0193 愛媛県四国中央市川之江町 2233 番地 TEL (0896) 58-3515 FAX (0896) 58-3464  
ホームページ <http://www.shikoku-ctr-hsp.jp/>